

学校心理士会神奈川支部ニュースレター

第6号



2010年1月24日発行

発行責任者 岡田守弘

芳川玲子

〒259-1292

神奈川県平塚市北金目1117

東海大学文学部心理・社会学科

日本学校心理士会神奈川支部10周年記念式典（2009.10.18）報告

10月18日（日）、ローズホテル横浜において日本学校心理士会神奈川支部の設立10周年を記念して記念講演会「神奈川支部10年の歩に寄せて ―

学校心理士に期待するもの―」が行われ、引き続いて記念式典が催されました。

神奈川県、横浜市、川崎市の各教育委員会から来賓の方々のご出席を賜り、神奈川県教育委員会より「不登校やいじめなど様々な教育現場の問題に対して、学校が自分たちの問題として取り組んでもらうために教育相談コーディネーターを養成して全校に配置した。さらに専門的などころから支援してもらう要必を感じており、学校心理士に期待するところである」とのご祝辞を頂きました。



続いて、このたび名誉学校心理士になられた神奈川支部特別顧問の並木博先生に記念品の贈呈が行われました。

会場をパーティー会場に移しての祝賀会には80名近い会員が集い、和やかな雰囲気の中で親交を暖めました。神奈川支部が大切にしてきた「顔の見える支部」そのままの楽しい会となり、「これからの10年に向けて」のスタートの一時となりました。



会場をパーティー会場に移しての祝賀会には80名近い会員が集い、和やかな雰囲気の中で親交を暖めました。神奈川支部が大切にしてきた「顔の見える支部」そのままの楽しい会となり、「これからの10年に向けて」のスタートの一時となりました。



第23回 研修会（設立10周年記念講演）報告

神奈川支部10年の歩に寄せて —学校心理士に期待するもの—



「学校心理士：これまで、そして、これから」 学校心理士会神奈川支部長 岡田守弘

◆これまで

- 昭和38年 戦後、少年非行が増加しカウンセリングの勉強会が活発であり、7名の専任カウンセラーが教員配置として神奈川県に置かれた
- 昭和48年 子どもの荒れの問題から、横浜市の中学校に生徒指導専任教諭が全校配置
- 平成5年 神奈川県第二教育センターでスクールサイコロジスト養成講座が始まる
- 平成9年 学校心理士資格認定開始

平成10年 日本学校心理士会発足

平成11年 日本学校心理士会神奈川支部発足

会員は実務家が多かったが10年の時を経て教育実践の場が変わってきた。発足当時、16人の発起人でスタートし「顔の見える支部」ということを大事にしてきた。記念誌の「研修の記録」を見てもらえば分かると思うが「何をどういう風に考えればよいのか」ということを先取りして取り組んできたと自負している。

◆これから

①学校心理士による援助、活動

核になるところはアセスメントだろう。チームでのアセスメントが大事になる。

カウンセリングは勉強会が進んでいる。

コンサルテーションはチーム援助の根本となる。

コーディネーションは十分に熟していないところがあるが、共通のイメージは持てるようになってきた。

②学校心理士の役割、機能

「学校心理士」として（名乗りを上げて）学校の中で活動をしているか。

→学校心理士としてのアイデンティティー こういうことを考えて、こういうことをしている者であるという。その状況は様々だろう。（例：出前アセスメント）

コーディネーター 十分にコーディネートできているか。

マネージメント 学校全体、地域、行政までを意識してマネージメントする。

管理職としてマネージメントに学校心理士の長をどのように活かすか・・・

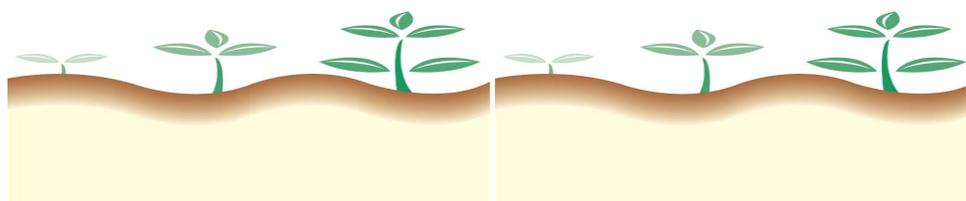
学校目標の中に、人間関係の構築に、メンタルヘルスに、次の管理職への研修に。

〈まとめ〉

マネージメントとしての学校心理学はまだこれから。

子どもをいかにイメージできるか（アセスメントの重要性）

学校心理士をひとつの職能として考える時期にきているのではないか。



「神奈川の学校心理士 - 10年を振り返って そして これからの10年へ-」

神奈川県立総合教育センター 内山慶子



これまでの10年で、教育界には大きな変化があった。教育相談に関してもスクールカウンセラー制度や相談室の開設など、学校の中でその存在が見えてきた。システムが定着してきた感はあるが、教育相談が子どもたちに有効に働いているかどうか。教員の訴えには「子どもがわからない」というものが多い。「わからない」を放っておかない努力が大事。学校心理士は「わからない」中で勘よく動き、情報を拾い、理解の範囲を広げ、橋渡しできる人であって欲しい。

◆神奈川県の支援教育という理念を背景にしての学校心理士

・ [特殊教育] から [特別支援教育] に、さらに [支援教育] に

支援教育に携わる人材育成の経緯・・・スクールサイコロジスト養成講座（盲・ろう・養護学校）から教育相談コーディネーター養成講座（小・中・高等学校）に／特別支援教育対象の子どもたちだけではなく「すべての子ども」に対してアセスメント、カウンセリング、コーディネーション、コンサルテーションができるように

・ 学校ごとの支援の状況

小中学校…名称は様々だが支援の組織は校内にできている／人材としてはコーディネーター以外にも少数人数授業担当やスクールアシスタント、介助員、教育ボランティアなど／形態としては徐々に取り出し指導ができてきている

特別支援学校…自立活動教諭や作業療法士等の専門職も入ってきた／福祉、

労働、医療等との綿密な連携もできている／地域の支援教育のセンター的役割も推進してきている

高校…特に強化していきたいところ／以前ならば「不登校状態は退学」と対応されていた生徒達に対して「支援しなくては」という意識に変わってきている／生徒自身に「助けてもらった感」を持たせ、「自分はこれでいいんだ」という自己認知を深めるような教育相談を展開して欲しい／高校で「サポートを受けられる」という認識は小中学校段階にも希望を与える

総合教育センター(旧第二教育センター)の支援教育に関わる主な研修の歴史

年度	H5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
特別支援学校・特別支援学級	スクールサイコロジスト養成講座(盲・ろう・養護)											スクールサイコロジスト養成講座(盲・ろう・養護・小・中学校)	支援教育推進者養成講座(特別支援・小・中学校)				
	H6～H15は2年間の講座として開催											相談支援チーム研修講座(盲・ろう・養護・小・中学校)		相談ネットワーク研修講座(同左)			
小・中学校	教育カウンセラー養成講座(小・中学校)		スクールサイコロジスト養成講座の修了者が引き続き受講する講座		学校カウンセリング研修会(小・中学校)		教育相談コーディネーター養成講座(小・中学校)										
高等学校	学校カウンセリング講座(小・中学校)		学校カウンセリング研修会(高等学校)		教育相談コーディネーター養成講座(高等学校)												

◆学校心理士の専門性

特にアセスメントは大事だと思う。さらに心理教育的プログラムの提供が重要になってきている。子ども同士の力を使い、学級崩壊や逸脱行為などを未然に防ぐようプログラムを組み立てていく。プロとして仕事を行っていくには常に学び、新しい自分が変わって行かなくてはならない。

◆学校心理士のアイデンティティー

- ・ 「教育」「心理」の両面から分析、対応できる
- ・ 「集団」と「個」の両方が扱える
- ・ 個別の視点を持ち、集団の中で個を扱える
- ・ 集団を力を個に有効につかえる
- ・ 「個」に対応したツール教材を選び、提供でき、自身で使ってモデル提示でき、ユニバーサルデザインの提供へと進められる
- ・ 支援を実践し、同時に協働者に助言できる
- ・ 現場でSC、CO等支援スタッフを支えられる
- ・ 課題、事例を心理分析でき、見立てることができ、教育場面での支援の実践に移行できる
- ・ 心理教育プログラムを実践、提供できる
- ・ バランス感覚を持ち備えたこれらの支援教育のリーダー、モデルである

『はざま』の専門家であることを大事にしたい。「〇〇の専門家」ということではなく、橋渡しができるリエゾンの位置づけがいい。いいポジションにいる資格だと思って欲しい。

全国大会

日本学校心理士会第5回全国大会（2010年度大会）が神奈川で行われることとなりました。「神奈川らしい」結束力のある大会にするために、神奈川支部のみなさまにはご協力、ご支援をよろしくお願い致します。

期日：2010年（平成22年）8月21日（土）、22日（日）

会場：東海大学湘南キャンパス（平塚市北金目1117）

テーマ：『拓く つながる ～学校心理学の未来へ～』 *仮題

プログラム：*案

8/21（土）◇開会

◇基調講演

◇ポスター発表／公開講座

◇懇親会

8/22（日）◇研修（午前の部）

◇総会

◇研修（午後の部）

*詳細は4月初旬にお知らせします。



第24回 研修会

日時：2010年（H22年）2月28日（日） 14:00～17:00

会場：相模女子大学 マーガレットホール4階 ガーデンホール

（小田急線 相模大野駅から徒歩10分）

内容：非公開

講師：非公開

本の紹介

「特別支援教育は特別なのか」 阿久澤 栄 玉川大学出版部 2300円＋税
—推薦文—

本書は「特別支援教育」で「特別なことをしなければ」と困っている先生方やこれから教員になる学生さんに知識と元気をくれる本です。30年以上、障害児教育に携わってきた阿久澤さんが、発達障害児をどう理解し、どう支援するかについて、専門用語でなく学校の言葉を使い、先生方の視点から、学級や学校でできることに焦点をあてて解説します。子どもへの関わり方を振り返りながら「ちょっとした工夫」を重ねていくヒントがいっぱいの本です。

石隈利紀

「特別支援教育 はじめのいっぽ」 井上賞子・杉本陽子／著 小林倫代／監修

学研 3150円（税込）

子どもの抱える「困難の背景」に着目した、特別支援教育の入門書。いまさら聞けない基本を丁寧に解説。「はじめのいっぽ」を活用した実践の具体例を紹介。子どもに合ったアイデアシートをプリントして指導できるなどのCD-ROM付き。

編集後記 設立10周年記念特集号です。ひとつ大きなイベントが終わったとホッとしていましたら、2010年は全国大会を神奈川で行うことになりました。これも一重に柔軟な実行力(?)を見込まれたことでしょうか。ともあれ、神奈川支部の結束の強化にこのニューズレターが少しでもお役に立てればと願っています。（編集部）